中大スポーツ
CHŪDAI SPORTS
4月2日 土曜日
令和4年（2022）
〈第170号〉
中央大学体育連盟機関紙
発行人 辻市 雄大
編集人 町田 航大
八王子市東中野742―1
電話 042(674)2402

らーめん
にんにくや
Instagram: ninnikuyaseki
twitter: ninnikuya_h
応援してるぞ〜!!

旋風起こせ！中スポ

〈ご卒業・ご入学おめでとうございます〉Vリーグ内定〈終面〉

中央から世界へ

兄弟

吉居 駿恭 大和

父と恩師が語る吉居兄弟の強さ

吉居兄弟の強さとは。愛知県田原市で育った中学時代までと強豪・仙台育英高時代の軌跡を、父・誠さんと恩師である真名子圭（まなこ・きよし）・前仙台育英高陸上部長距離男子監督の証言から迫る。

父 吉居誠さん

小学校時代、同級生わずか10人ほどだったという愛知・田原市で育った兄弟。同市を拠点に活動する、トヨタ自動車陸上長距離部に父・誠さんが所属していた影響や同部の地域教室を通じて陸上競技に惹かれていった。

大和が田原東部中に入学した時点で練習メニューを組み、本格的に競技を始めた。誠さんも陸上部に携わり、週に50㌔以内となるように自分たちでメニューを考えさせていたと振り返った。「成長期はまず体をつくること。食事や睡眠を走ること以上に口酸っぱく伝えていました」。高校・大学から実業団までを考え、長期的な成長を見据えた指導を行った。

現在の活躍に「正直、もう十分頑張ってくれている」と笑う誠さんだが、世界に挑戦していく兄弟に「親よりも上を見ているかもしれません」と話す。今一番伝えたいことを問われると、「陸上を楽しんでほしい」。両親の経験と先見的な視点が兄弟を強くした。

〈当時の練習表〉

恩師 真名子圭監督

「二人とも素直なので言ったことに対して理解し、取り組んでくれて吸収力はすごかった」と振り返る強豪・仙台育英高を率いた監督。“真名子メソッド”として「走りの本質」をベースに指導をしている。「走ることを嫌にならないよう、『かけっこを始めたときの原点を思い出せ』といって、楽しむことが大事なのだといい続けましたね」。その上で自主性を重んじるように伝えていった。

大和は「腰高な走りや骨盤の動き、フォアフットを含め何か大きく化けるかもしれない」と将来を期待してスカウトした。一方で駿恭に対しては「大和の弟だから声を掛けたのではない」と伝えたうえで「走りに惚れ込んだ」という。

二人が次のステージへ羽ばたくにあたり、「オリンピックに兄弟で出てくれたら、指導者として本当にうれしい」と今後のさらなる活躍に期待を寄せた。

16年全中通信愛知県予選での大和（中3）右と駿恭（中1）左〈写真提供＝父・誠さん〉

田原東部中
→仙台育英高
→中大

今年の箱根駅伝1区で驚異的な走りを見せ、区間新記録を樹立した男、吉居大和（法3）。その弟、吉居駿恭（法1）が今春、中大に入学する。

駿恭は中学時代から全国トップレベルで活躍し、1万㍍高校歴代3位の記録を持つ超高校級の逸材だ。

二人が田原東部中から仙台育英高、そして中大へとステージを移して成長する過程の先に、彼らはどんな青写真を描くのか。

24年パリ五輪の星「二人で世界と戦える選手に」

貪欲に高みを

「藤原監督の下で強くなりたい」。駿恭は高校入学まもなく中大の練習に参加してそう決意した。この時、兄・大和はまだ伝統の「C」ユニフォームに袖を通していない。その思いは高校3年間でより深まった。

「陸上＝人生」と形容するほど競技に強い思いを持つ18歳は、謙虚で高い志を持つ。大和と共に出場した2018年全国高校駅伝は7区・アンカーを走り、一騎打ちを制して優勝のゴールテープを切った。しかし、当時を振り返って「先輩たちのおかげでいい思いをさせてもらった」と自身の活躍には触れなかった。また、3年時に1万㍍で高校歴代3位の記録をたたき出した記録会についても、「走っている途中で27分台や高校記録が見えていたので、もったいないという気持ちがあった」と快挙を成し遂げてもなお、貪欲に高みを目指している。その飽くなき向上心の源泉は、「陸上が好き」という純粋な気持ちだ。

韋駄天の系譜

陸上一家に生まれ、幼いころから走ることが身近にあった。競技を始めた時期はほとんど同じだという二人の共通点について、大和は「陸上が好きな気持ちと強くなりたい気持ちはお互いにある」と語った上で、「どんなレースでも着実に結果を出せる」と弟の安定感に舌を巻く。駿恭も大和が指摘する点を自身の走りの強みとして挙げ、「駅伝になると自分のような調子の波が少ない選手はチームにとって安心できる存在だと思う」と力強い。

仲むつまじい兄弟はシューズを履くと家族の枠を越え、選手としてお互いを認め合う。それぞれの活躍について、「弟には負けたくない気持ちがあるし、弟が記録を出せば自分も出さないといけない」と大和。一方の駿恭も、「兄の活躍に対してうれしい気持ちはあるが、自分も競技者なので負けていられない」とお互いの活躍を自身の力に変えている。

世界見据えて

兄弟が今春、中大にそろい大学長距離界の勢力図を大きく変えていくことは間違いないが、二人の意識はすでに世界に向いている。大和が「いつか一緒に世界大会に出られたら」と語れば、駿恭も「二人で世界と戦える選手になりたい」と大学4年間を世界で勝負するための土台にしたいと考えている。

これまで世界に挑んだ日の丸ランナーたちの中には、兄弟で学生時代から切磋琢磨（せっさたくま）してきた選手が数多くおり、吉居兄弟はそれに続き、そして超える勢いを持つ。今季、大和は米国・オレゴン州で開催予定の世界陸上5000㍍の出場を狙う。ルーキーイヤーとなる駿恭は中国・成都で開催予定のユニバーシティゲームズ1万㍍の出場を目指す。「中央から世界へ」を合言葉に学生界にとどまらない活躍を誓う。

JOC＝ジュニアオリンピック、安芸路＝都道府県駅伝

（若林拓実）

◆吉居兄弟の主な戦績（中学・高校）◆

大和					駿恭			
大会名	種目・区間	順位	年		年	大会名	種目・区間	順位
全中	1500㍍	予⑥	16	田原東部中	16	JOC	C1500㍍	④
〃	3000㍍	予⑥			17	全中	1500㍍	⑪
JOC	A3000㍍	⑮				〃	3000㍍	⑬
						JOC	B1500㍍	②
					18	安芸路	2区	⑰
						全中	1500㍍	①
						〃	3000㍍	②
						JOC	A3000㍍	①
					19	安芸路	2区	⑥
都大路	2区	②	17		19	都大路	7区	⑨
IH	5000㍍	DNS	18		20	安芸路	4区	⑤
都大路	1区	㊷				都大路	1区	⑦
安芸路	4区	⑯	19	仙台育英高	21	IH	5000㍍	予⑩
IH	5000㍍	③				都大路	1区	③
国体	少年A5000㍍	⑭						
都大路	3区	⑧						
安芸路	1区	①	20					

Center Position

維新の三傑と称された西郷隆盛がイギリス留学する甥に宛てた書簡に次の一節がある。〈耐に耐えて梅花麗（雪梅花麗）〉（雪しん）梅の花は雪や寒さが厳しければ厳しいほど美しい花を咲かせ芳しい香りを放つ。元メジャーリーガーの黒田博樹氏が座右の銘にしていることでも有名な漢詩だ。▼苦しい受験勉強を乗り越え、晴れて中央大学へ入学される新入生のみなさん、ご入学おめでとう。真摯（しんし）な努力を積み重ねた末に、ようやくたどり着いた「合格」の二文字。その奮闘に心からの拍手を送るとともに、今後の学生生活に幸多からんことを切に願う。▼コロナ禍で迎える2度目の受験シーズンとなった。入試が本格化する1月中旬から新型コロナウイルス「第6波」が急拡大。感染者の増加ペースは鈍化傾向にあるものの、今なお予断を許さない状況だ。▼学生記者の活動もコロナ禍3年目に突入しようとしている。振り返れば、3年生世代は正式な新歓活動がなく、先行きが不透明な状況で入部した。先日、4年生が卒部を迎えたが、その中には一度も顔を合わせることなく別れを告げた先輩たちもいる。時の早さを感じると同時に、好転しない社会情勢にもどかしさを感じる。部の運営方針、取材様式など記者活動にもさまざまな変化や制約があり試行錯誤が続く。▼西郷の同漢詩には次のような一節もある。〈勲業顕多難〉（勲業多難に顕わる）立派な業績も多くの困難を乗り越えてこそ生まれる。立派でなくとも、選手たちに寄り添い肉声を届けたい。困難な時代に直面した世代だからこそ、新たな中スポを生み出す覚悟で挑戦していきたい。（若林）

YouTubeで配信中
報知プロ野球チャンネル
加藤デスク&水井デスクが迫る!!
球界の裏ネタ満載!!
大物ゲスト続々登場!!
吉本芸人とコラボ中!!

ラーメン二郎
八王子野猿街道店2
アルバイト募集
新入生大歓迎
ラーメン食べ放題
部活会員募集
詳しくはDMで↓
@Jiro_Yaenkaido2

ことしの箱根駅伝で1区区間新記録を打ち立てた大和右〈写真©関東学連／月刊陸上競技〉と今春中大へ進学する駿恭〈カメラ・杉浦瑛俊〉、切り込み写真はポーズをとる駿恭上と大和下

レイアウト 若林拓実